

ふるさと

菰野の方言

(菰野弁)

改訂版(4号)



菰野の方言研究会

『方言』というと東京以外の地方で使われ、語りつがれた土着性のある言葉と言われているようである。

しかし大都会であっても、地域的にとらえれば東京や名古屋・大阪も一地方に過ぎないし、そこで使われている言葉も「関東弁」や「関西弁」等である。

方言とは言葉の地域的な変形であり、その土地の歴史、そして交通路の発達や都市の繁栄の中で時代と共に生まれ育ち、長い年月を経て現在の形として残された言葉だと思う。

これからも、私たちは時代と共に生き、かつ姿形を変えていくように、言葉も同様、同じ意味を持つ方言は、さまざまであるのは当然です。

方言は自分が生まれ育った土地の言葉なので、「方言だから」「訛りがあるから」恥ずかしいという理由で、無理して共通語を使う必要はない。

要は言葉を大切にし、自分を表現する的確な語らいと誇りを持てば、次第に美しい言葉として、大勢の人が方言を使ってくれると思っている。

はじめに

方言は心のふるさと、哀愁を憶えるもので自分が生まれ育った土地の匂いのする言葉を、誰しもが愛着や自誇を抱いていることでしょう。

しかし、近年交通網が発達して人の移動が広範囲になり、その上マスコミが一方向的に共通語を流している為、都会に出れば意識的に方言を避けている人が多い様に思います。

そう言うことから若い世代には地方の言葉などが伝わらなくなり、故郷への愛着が徐々に薄れつつあることに危惧の念を抱いています。

私は菰野弁をふるさとの文化、強いては菰野の歴史の片鱗として次世代に残していきたいと考え、昔から地域で喋っていた言葉を集めました。

方言や言葉の訛りは出生地の証明書と言うべきものである故、自信をもって菰野の方言(菰野弁)を喋ろうじゃありませんか。

尚、以下に記した方言の中には、それがどこの地域のものか、聞いたことがない言葉もあろうかと思いますが、私が子供の頃(昭和20年前後)から地域で聞き慣れた、ふるさとの言葉を思いつくままに羅列した菰野弁「菰野の方言集」です。

2025年3月現在
編者 諸岡時次

共通語とは日本全国で通用する言葉、()内はその方言と類似の言葉

あ行の方言	共通語 ・ (方言の類似語)	会話の例
あいなし	一寸時間をおいて。(あいおいて)	「あいなしに」帰った
あいさ	隙間。(あわいさ)	「あいさ」に挟まった
あいおく	間隔。	もうちょっと「あいおく」わ
あいのひ	平日。予定のない日。	「あいの日」に行く
あうち	うちわ。	「あうち」で煽ると涼しい
あえん	逢えない。	もうあの人に「あえん」

あかへん	いけない。(あかせん・あこか)	それは「あかへん」で
あかん	いけない。	そんな事したら「あかん」
あかった	開いた。	缶の蓋が「あかった」
あがりと	部屋への入り口。(あがりはな)	「あがりと」に置いとく
あからむ	熟する。(あからんだ)	やっと柿が「あからむ」
あぐんだ	困った。嫌になる。往生こいた。	この仕事は「あぐんだ」
あげる	戻す。(ゲーゲー)	酒の飲みすぎで(あげる)
あげずし	いなり寿司。	「あげずし」は母の味
あごた	顎。	あの人は「あごた」が長い
あこかさ	だめですよ。(あかん)	言うても「あこか」
あさっぱら	朝。早朝。	「あさっぱら」からどこへ行く
あさぶら	タイヤ裏底雪駄。	藁草履より「あさぶら」が欲しい
あじごはん	炊き込みご飯。	祭りの日に「あじごはん」を炊く
あじない	美味くない。不味い。	この料理は「あじない」ワ
あずきまい	あぐら。	膝が痛いので「あずきまい」をかく
あそぼ	遊そびましょう。	ボールで「あそぼ」
あたらかす	当たる。	ガラスに「あたらかす」
あたたい	熱い。	このお茶は「あたたい」
あたたい	きつい。ひどい。	あんたは「あたたい」ことを言う人や

あたぎ	八つ当たり。	怒られたので犬に「あたぎ」する
あちこち	あちらやこちら。(あっちゃこっちゃ)	物を「あちこち」探す
あっこ	向こうの方向。	「あっこ」は何処の家や
あっちゃ	向こう。	「あっちゃ」へ行こう
あっつい	熱い。暑い。	今日は「あっつい」日やナ
あつたらもん	もったいない。	ご飯を捨てたら「あつたらもん」や
あっほ	阿保。	あんた「あっほ」や
あびる	泳ぐ。	川で「あびる」
あぶなくさい	危なかしい。	「あぶなくさい」運転や
あーやこーや	あれやこれや。	「あーやこーや」世話やくナ
あほろく	ばか。	お前は「あほろく」や
あほだき	ひねの大根漬けを煮たもの。	「あほだき」食べるかな
あば	さようなら。※ <u>あ</u> <u>ん</u> <u>ば</u> いようの略	もう遅いから「あば」しよう
あま	女性。	「あま」のくせに大着するナ
あまだい	針箱。	おかさんの「あまだい」
あやかす	あやす。馬鹿にする。(たらかす)	俺を「あやかす」ナ
あやかる	物事がいつの間にか中止になる。	寄附金がなく行事が「あやかる」
あら	あたらしい。	わたしの靴「あら」や
あらかた	概ね。	作業は「あらかた」終わった

あらかない	荒っぼい。乱暴。	「あらかない」 こと言う
あらへん	ない。(あらせん)	どこにも「あらへん」
あろか	無い。(あつか・あらへん)	そんなこと「あろか」
あんたら	あなた達。	「あんたら」よく聞いて
あんきに	気にしない。	「あんきに」しとれ
あんに	あんなに。あのように。	「あんに」言うたのに
あんの	あるのですか。	そんにお金がどこに「あんの」や
あんばい	具合。調子。加減。	今日は「あんばい」悪いわ
いえる	植える。	庭に花を「いえる」
いかっせる	行かれる。	何処へ「いかっせる」のやろ
いがらい	えぐい。	こんな「いがらい」ものは食えん
いがむ	曲がる。ゆがむ。(いがんどる)	列が「いがむ」
いきつく	疲れる。(くたぶれる)	仕事がきつくて「いきつく」
いきしな	行く時。行く途中。	「いきしな」に土産を買い物をする
いきとみない	行くのがいや。	あの家は遠いので「いきとみない」
いける	埋める。	ごみを土の中に「いける」
いごく	うごくの音変化。動く。(いごかす)	あの車「いごく」やろか
いこまいつきゃ	行きましょう。	祭りに「いこまいつきゃ」
いざる	動く。	ちょぼっと「いざる」

いしな	石。	「いしな」がいっぱい
いしかけ	石垣	「いしかけ」をよじ登る
いじくる	さわる。(いじくりまわす)	粘土を「いじくる」
いっけ	親戚。	母屋の「いっけ」
いっくらでも	どれだけでも。	「いっくらでも」取っても良い
いっつも	いつも。	朝飯は「いっつも」味噌汁が付く
いっかと	一人前に。	「いっかと」言うやんか
いっしょくた	一緒に。	赤も白も「いっしょくた」
いっすに	たびたび。	「いっすに」邪魔する
いっち	一番。	この子が「いっち」
いっちょら	晴れ着。	今日は「いっちょら」着て来た
いってもた	行ってしまった。逝った。	あの人「いってもた」
いってこい	行ってきなさい。往復。	買い物に「いってこい」
いどだや	井戸のある建物。	「いどだや」で水を汲む
いなう	担ぐ。(になう)	<u>ふご</u> を「いなう」
いのかす	動かす。(いごかす)	石を「いのかす」
いび	ゆび	じゃー約束や「いび」きり
いらんこと	不要なこと。つまらないこと。余計なこと。	「いらんこと」言うな
いりよ	費用。経費。	「いりよ」を支払う

いれもん	物を入れる容器。	野菜の「いれもん」貸して
いろう	さわる。いじる。	作品を「いろう」な
いわっせる	言われる。おっしゃる。	良いこと「いわっせる」
いわんこっちゃ	言うたでしょう。	危ないって「いわんこっちゃ」ないわ
ういこっちゃ	菰野北部と員弁地区でありがとう。	お土産「ういこっちゃね」
うぐろ	モグラ。	畑に「うぐろ」がいた
うけ	吸い物の具。	みそ汁の「うけ」は油揚げと大根
うざこい	きたない。煩わしい。(うっとしい)	「うざこい」事をするな
うしならかす	失う。(うしなわらかす)	大切なもの「うしならかす」
うずくまる	しゃがむ。(つくぼる・つくなる)	胸が痛くて「うずくまる」
うすべり	上敷。	板の間に「うすべり」を敷く
うそこ	金品を賭けずに遊ぶこと。	この遊びは「うそこ」やで
うそこき	うそつき。	あんたは「うそこき」
うたてい	情けない。嫌な事。うっとしい。	「うたてい」こと言うナ
うちにんじゅう	家の者だけ。	田植えは「うちにんじゅう」で
うっそ	嘘。	「うっそ」言うな
うでる	茹でる。	芋を「うでる」
うまかけ	競馬。	昔 田光の八風大祭りには「うまかけ」が開催されたナー
うます	炊き上がったご飯を少しそのままにしておく。	釜めしを「うます」

うめる	冷ます。	熱いので水で「うめる」
うろきよろ	あっちこっち見る。	「うろきよろ」するな
うんなじ	同じ。(おんなじ)	年はわたしと「うんなじ」
うんまい	旨い。(んまい)	この店の饅頭は「うんまい」
ええあんばい	上手く。思い道理。	「ええあんばい」に出来た
ええかげん	適当。程々。いい加減。	「ええかげん」にしとけ
ええとこ	良家。金持ちや地域で偉い人の家。	あの人は「ええとこ」の子や
ええの一	よろしいですか。	こんなにもらって「ええの一」
ええもん	良い物。	「ええもん」見つけた
えげつない	いやらしい・あくどい。ひどい。	「えげつない」こと言う
えぜこい	ずるい。くどい。	〇〇さんは「えぜこい」人や
えせこに	巡りあわせが皮肉な時。	あいつ来なくてもいいのに「えせこに」来た
えぞこい	気持ち悪い・汚い。	これは「えぞこい」物やナー
えふ	荷札。	荷物に「えふ」付ける
えらい	疲れた。苦しい。	気張ったので「えらい」わ
えらい	大きい。強調する時は「ど」を付ける	ど「えらい」声で呼べ
えらいさん	偉い人。	あの人は会社の「えらいさん」
えらいこと	大変なこと。(えらいこっちゃ) えらいこっちゃ⇒大変なこと	あいつは「えらいこと」した

えろ	そんなに。たいして	「えろ」良い事ではない
えんぺつ	鉛筆。	赤「えんぺつ」貸して
おいでた	いらっしやった	お客が「おいでた」
おいきに	ふんだんに。	小遣いを「おいきに」使う
おいさん	叔父さん。	「おいさん」元気か
おいたろ	置いてあげよう。	ここに「おいたろ」か
おいとく	置いておく。	土産はここに「おいとく」よ
おいねる	背負う。歳上の女性との結婚。	荷物を「おいねる」
おいな	来なさい。(おいで・おいなされ)	また「おいな」
おいぼし	甥御。兄弟の男の子。	「おいぼし」が生まれた
おいそれと	簡単に。	「おいそれと」行けない
おおじょこく	酷い目にあう。難儀する。	君には「おうじょこく」わ
おおだい	お金持ち。裕福。	あんたんどこは「おおだい」や
おおた	出会った。(でおた)	友達と久しぶりに「おおた」
おおごっちゃ	大変だ。大事や。	これは「おおごっちゃ」
おおきに	ありがとう。	いいもの「おおきに」
おおとる	合っている。逢っている。	計算が「おおとる」
おかい	お粥。	「おかい」食べた
おかって	台所。	「おかって」で夜食のまわしをする

おかつせ	やめとこ。やめとけ。	ぼちぼち「おかつせ」
おかやん	母。嫁。(おかさん)	「おかやん」居るか
おかがみさん	鏡餅。	「おかがみさん」を供えた
おく	終わる。止める。(おこか)	おそいから「おく」としよう
おくどさん	かまど。	「おくどさん」でご飯を炊く
おくんな	ください。(おくれ)	おやつ「おくんな」
おけそくさん	仏に供える餅。御華束。	仏壇に「おけそくさん」を供える
おこた	コタツ。	寒いから「おこた」に入る
おさがり	神前の供物を下げた物。撤下神饌。 おさがり・・・「服は兄さんのおさがりで我慢する」	参拝者に「おさがり」を配る
おし	吸い物。	もう一杯「おし」よそって
おじ	おじいさん。	「おじ」は寝ている
おじや	雑炊。	今晚は「おじや」にしようか
おじやん	叔父さん。	隣の「おじやん」が来た
おしめる	自慢をする。	新しい服を「おしめる」
おしっさん	獅子舞。	「おしっさん」見に行こ
おぞい	怖い。恐ろしい。	「おぞい」こと言うナ
おだつ	ふざける。(ちょうける)	こらー「おだつ」ナ
おちよくる	からかう。	おい「おちよくる」ナ
おっきな	大きな。	「おっきな」こと言う

おっちやくい	横着。乱暴。	この子は「おっちやくい」
おっそい	遅いの強調語。	君のやることは「おっそい」ワ
おっちん	すわる。幼児語。	ここへ「おっちん」しなさい
おっせる	教える。	そろばんを「おっせる」
おっぼ	負んぶ。幼児語	「おっぼ」してやる
おてしよ	小皿・とり皿。	お母さん「おてしよ」とってください
おてま	杵。	あんた「おてま」返しをして
おてり	太陽。(おてりさん)	「おてり」があるので洗濯物が乾く
おとこし	男衆。	祭りの神輿は「おとこし」だけ
おどし	かかし。	雀の「おどし」を立てる
おとつつあん	親父。(とつつあん)	「おとつつあん」に叱られた
おとつゐ	つおととい。一昨日。	それは「おとつゐ」のこと
おなら	屁。放屁。	人前で「おなら」をしないで
おはようさん	おはようございます。	元気に挨拶「おはようさん」
おひさん	太陽。(おひっさん)	今朝は「おひさん」出とる
おぼ	小さい丸いもの。	桑「おぼ」を食べた
おまいた	あなた達。(おまいら)	「おまいた」何処へ行く
おみ	あなた。	「おみ」誰やったかな
おもしろい	面白い。(おもしろ)	「おもしろい」こと

おもす	重しを置く。	漬物に石を「おもす」
おもる	おごる。オとモの音変化。	友達に昼飯を「おもる」
おなごし	女衆。（反対語：おとこし）	「おなごし」は何人
おぶ	お茶。（おぶちゃんは幼児語）	「おぶ」頂戴
おぼたい	重い。（おぼったい）	この荷物「おぼたい」
おぼこい	子供っぽい。初な。	君は「おぼこい」
おまえ	大前の音変化で元々、神仏・貴人の前を敬つていう言葉。 上から目線で使われることが多く相手に不快感を与えるリスクがある。	
おれんた	俺たち。（おらんた）	「おらんた」はみんな同級生や
おんぼ	乳母車。	「おんぼ」で子守
おんぼ	しつぽ。	長い「おんぼ」の犬
おんぼ	御方・陰亡・火葬場の世話役。	今日は三番組の「おんぼ」役やった
おんぜ	大勢。	今日は「おんぜ」で行く
おんどこ	俺の家。（おらんどこ）	「おんどこ」へ来てくれ
おんた	雄。反対語はめんた＝雌	うちの犬は「おんた」
おんなじ	同じ。平等。	みんな「おんなじ」や
か行の方言	共通語・（方言の類似語）	会話の例
かあるい	軽い。	荷物が「かあるい」
かい	痒い。	「かい」所に手が届く
かいもない	やりがいがない。無駄。	仕事した「かいもない」

かいだるい	けだるい。何となく身体がだるい。	身体が「かいだるい」
~~かいな	~~ですか。	欲しい物はこれ「かいな」
かいもん	買い物。	ついでに「かいもん」する
かいはる	卵の殻を割り雛が産まれる。	鶏が「かいはる」
かえこと	交換。(かえっこ)	おやつを「かえこと」する
かえりしな	帰る途中。	「かえりしな」に店に寄る
かこう	備蓄。(かことく)	地下にさつま芋を「かこう」
~~かさ	~~ですよ。	そんな事したら あこ「かさ」
かざ	匂い。臭い。	ええ「かざ」する
がげっちょ	崖。	「がげっちょ」へ行ったら危ない
がき	子供。(子供の俗称・仏教用語)	この「がき」どもが
かきます	掻き回す。混ぜる。	飯を「かきます」
かたっぽ	片方。	靴が「かたっぽ」ない
かたくま	肩車。	子供を「かたくま」した
がたぎ	バツタ。	田圃に「がたぎ」が発生した
かつたい	固い。	この菓子「かつたい」
かつためっこ	交代で。かわりばんこ。	ブランコは「かつためっこ」で
かどっこ	角。	板の「かどっこ」を削る
かど	庭。外。	「かど」で遊ぼ

がとな	大きい。大げさ (がっとな)	「がとな」 こと言うな
かさまい	裏返し。反対。	シャツが「かさまい」
かしん	菓子。	この「かしん」屋
かしわめし	鶏肉のまぜごはん。	今夜は「かしわめし」のごつつお
かす	使い物にならない。	わしは「かす」やった
かす	米を研ぐ。雑ぜる。	米を「かす」、トランプを「かす」
かずかる	罪を負う。	自分が知らないのに「かずかる」
かすまい	空回り。	カいっぱい回したが「かすまい」食った
かすめる	見下す。なめる。甘く見る。	俺を「かすめる」な
かする	わずかに触れて通り過ぎる。	ボールが顔面を「かする」
がせ	慌て。そそっかしい。	あいつは「がせ」や
かそわしい	やかましい。	犬の鳴き声が「かそわしい」
かなんぼ	つらら。鉄棒 (かなんぼ) 。	屋根からの「かなんぼ」
かます	気合を入れる。ハッパをかける。	一発「かます」
かみつかう	吐く。嘔吐。	酒を飲みすぎ「かみつかう」
がもじ	怖いもの。「蒲生氏 (がもうじ)」の訛り？	「がもじ」が来るぞ
かやる	倒れる。ひっくりかえる。	風で木が「かやる」
がなる	怒鳴る。	大声で「がなる」
かなん	嫌だ。困る。	そんなこと「かなん」わ

かまう	からかう。	あいつがあだ名で「かまう」
かまうな	気にするな。気に掛けるな。	友達が来ても「かまうな」ヨ
からげる	くくる。しばる。	焚き木を「からげる」
がらんど	洞。空間。	「がらんど」に魚が居る
～～からかす	～～やり続ける。	痒い所を搔き「からかす」
かれこれ	もうじき。	「かれこれ」到着する
かりしほほす	刈り取り時期を逃す。	長雨が降って「かりしほほす」
～～かや	～～ですか。	これで良いの「かや」
かんこ	思い、考え。	私も「かんこ」がある
かんこくさい	焦げ臭い。きな臭い。	この辺り「かんこくさい」
かんご	竹かご。入れ物のかご。	野菜の「かんご」とって
ガンガン	大きいブリキ缶。	この「ガンガン」に入れるわ
カンカン	小さなブリキ缶。	「かんかん」蹴りで遊ぼ
かんぴんたん	乾いて固まった状態。	ご飯さんが「かんぴんたん」
がんとちもち	いばら餅。	野上りには「がんとち餅」を作る
がんぜない	無邪気。言い訳のない	未だ幼児だから「がんぜない」
きいない	黄色い。	「きいない」着物はよく派手る
きいよう	心穏やかに。気軽に。	いつでも「きいよう」来ておくれ
きける	きつく感じる。疲れる。	この荷物を背負うのは身体に「きける」

きさん	貴様。あんた。（接続詞として使う）	そやけどナ「きさん」〇〇やで
きつい	ひどい。短い寸法。	「きつい」こと言う
きついこって	愛想もなく・接待なくて。	お茶も出さずに「きついこって」
きったない	汚れている。穢い。	あんた「きったない」手やな
きつきと	いつも。度々。	「きつきと」訪ねて来る
ぎっちょ	左利き。（左ぎっちょ）差別用語	私は左「ぎっちょ」
きづつない	心苦しい。	こんな物を貰うと「きづつない」
ぎざ	縁起。	食事中に箸が折れると「ぎざ」が悪い
きちきち	窮屈。	ズボンが「きちきち」
きど	家の入り口。	君の家の「きど」まで送る
ぎなぎな	細々。曲りなりに。ぼちぼち。	「ぎなぎな」生きとるわ
きばる	頑張る。いきむ。	もう少し「きばる」
きびしよ	急須。	「きびしよ」でお茶入れる
きもん	着物。	「きもん」は久しぶりに着る
きゃって	こうやって。	これは「きゃって」持つのや
きやへん	来ない。	彼は「きやへん」
きよう	意気込む。張り切る	「きよう」と最後にバテるぞ
きょうび	今時。近頃。最近。	「きょうび」の子供は～～
ぎょうさん	いっぱい。多い。（ようさん）	「ぎょうさん」の人

きりきりまい	荒ただしい。	祭りの準備で「きりきりまい」
ぎり	つむじ。	僕の頭に「ぎり」が二つある
きわ	近く。端。(ねき)	俺の「きわ」に來い
きんじよまわし	近所付近。	「きんじよまわし」に触れ回る
きんの	昨日。	「きんの」行けなかった
くくる	結ぶ。縛る。	ひもで「くくる」
くじゃける	潰れる。	大事なものが「くじゃける」
くすべる	焚き木燃やして煙を出す。	生の杉を火に入れて「くすべる」
くたぶれた	疲れた。	今日は「くたぶれた」
くちな	蛇。	土手に「くちな」がおる
くっさい	臭い。怪しい。	あいつが「くっさい」
くっく	靴(幼児語)。	「くっく」履くか
ぐてんぐてん	酒に酔っ払った様子。	「ぐてんぐてん」に酔う
くみyai	組合。	農協「くみyai」
くれる	貰える。	嫁どりを見に行くと菓子を「くれる」
くろ	角。横。	道路の「ぐろ」にある
くろじ	青いあざ。	向う脛を打ったら「くろじ」になった
くわおぼ	桑の実。	「くわおぼ」とって食べる
くわれる	刺される。	竹やぶで蚊に「くわれる」

～～け	～ですか。軽い疑問。	そんな事知らんの「け」
げえな	蓮華。	田へ「げえな」刈に行く
けしる	消す。(けする)	黒板の字を「けしる」
けせろ	きせる。煙管。	「けせろ」でタバコを
けつかる	居る。～している。(けっちゃう)	こんな所に「けつかる」
けつね	狐。	虹がでたから「けつね」の嫁入り
げっすい	心が卑しい。下品。げすいの強調語	「げっすい」こと言うな
けつまずく	躓く。	石に「けつまずく」
げっそり	がっかり。急に痩せるさま。	試合に負けて「げっそり」した
けっち	ケチ。	あの人は「けっち」や
けつつ	尻。びり。	運動会はいつも「けつつ」やった
けったわす	蹴り倒す。	要らんこと言うたら「けったわす」ゾ
けつぶた	尻。(しりぶた)	「けつぶた」を叩く
～～げな	～～らしい。	そうや「げな」
けなりい	羨ましい。	あの家が「けなりい」
けもくじゃ	毛だらけ。	この虫は「けもくじゃ」
けぶたい	煙たい。うっかしい。	あいつは「けぶたい」わ
こー・・・	このように。	「こー」やつたほうがええ
ごー	松や杉の落ち葉。	焚きつけに杉の「ごー」捨てきて

ごーかき	竹又は金属製の熊手。	「ごーかき」でごみを集める
こう	このように。	「こう」やってする
ごうがわく	腹が立つ。	それは「ごうがわく」話
こうとる	買っている。飼っている。	弁当を「こうとる」、猫を「こうとる」
こえた	太った。(こえとる)	あんた最近「こえた」ね
こえたご	肥桶。肥坦桶。(こえたんど)	「こえたご」を担いで行く
こうこ	大根漬け。	朝ご飯に「こうこ」を添える
ごうさ	よばれる。いただく。	腹一杯「ごうさ」になったナ
こうたる	買ってあげる。	お菓子を「こうたる」
こうちょうに	質素に。	生活はどこの家も「こうちょうに」しとる
こうらい	とうもろこし。	「こうらい」の種を蒔く
ごえんさん	僧侶。ご院主さん。	「ごえんさん」がござった
こおてった	買って行った。	野菜と牛肉を「こおてった」
こおとい	地味。	この服は「こおとい」
ござる	来る。居る。	偉いさんが「ござる」
ごぜる	言葉がハッキリ言えない。	酒の性で言葉が「ごぜる」
こきやがった	言うた。	嘘を「こきやがった」
こく	する。言う。	屁を「こく」、嘘を「こく」
こぐちから	片っ端から。	「こぐちから」サルに食われた

ここんとこ	最近。このところ。	あの人「ここんとこ」見ないナ
こごめる	小さくする。	貝殻を「こごめる」
こさぶい	少々寒い。	今日は朝から「こさぶい」
こしゃえる	作る。(こさえる)	仕事を「こしゃえる」
こじょ	女の子。お嬢さん。	うちの初孫は「こじょ」や
こせばい	少し狭い。	この先は「こせばい」道路
こそっと	静かに。(こっそり)	「こそっと」持っていく
こそこそ	人目につかぬ様子。	「こそこそ」出ていく
こそばい	くすぐったい。	足の裏が「こそばい」
ごそごそ	寸法が合わない。大きいこと。	ずぼんが「ごそごそ」
～～こそ	～～だけ。	おやつはアラレ「こそ」なかった
こすい	卑怯。ずるい。(こっすい)	君は「こすい」
ごたぎさん	ご大儀でした。世話掛けました。	今日は「ごたぎさん」でした
ごっそり	全部。いっぺんに。(ごそっと)	「ごっそり」盗まれた
ごったい	どうにもならない。	山際の水田は「ごったい」な田圃
ごったがえす	混雑。ごった+返す。	祭りで「ごったがえす」
ごつつくさい	不似合い。	「ごつつくさい」格好している
ごったに	色々な素材を雑げた煮物	「ごったに」で夕食
こっちゃ	こちら。～～のことや。	「こっちゃ」へ来い・そう言う「こっちゃ」

ごっちゃませ	区別できないように混ぜる。(ごちゃごちゃ)	白黒「ごっちゃませ」
ごっつお	ご馳走。	久しぶりに「ごっつお」食べよう
こっつり	小さく。	もっと「こっつり」と包んだらどう
ごっつおさん	ご馳走さま。	食事の後は感謝をこめて「ごっつおさん」と言う
ごってり	必要以上。	白粉を「ごってり」塗る
こっぺり	全部。(すっぺり)	「こっぺり」食べた
ごっぽり	根こそぎ。(がっぽり)	土を「ごっぽり」掘る
こって	丈夫で大きい牝牛、言うことを聞かない人。	あいつは「こって」やナ
こつばい	小さい。小粒。	この実は「こつばい」
ごてごて	理屈。どろどろ。	「ごてごて」言うナ
ことかき	恰好だけのことをする。	あの人は「ことかき」や
ことこうぜ	入り組んで複雑。	この屋の入り口は「ことこうぜ」や
ことぼし	小さな灯り。	「ことぼし」の灯りをつける
こどもし	子供達。	「こどもし」は何人ですか
こどりまわす	物事を小さく纏める。	貴方は何でも「こどりまわす」
こなす	行う。片付ける。	上手く仕事を「こなす」
こないだ	このあいだ。特定出来ない先日。	「こないだ」言うたやんか
こなげる	細かくする。	大きな木を「こなげる」
こびりつく	しつこくくっつく。	焦げが鍋に「こびりつく」

こびる	午前10時頃の軽い間食。	「こびる」にしよう
こぶち	罨。鳥や小獣などを獲る仕掛け。	「こぶち」を仕掛ける
こべった	大人びた。	この子は「こべった」娘や
こぼ	男の子。(こぼんた)	家は「こぼ」一人や
こまい	細かい。小さい。	今年の実は「こまい」
ごま	こま。車輪。	「ごま」廻しで遊ぶ
ごめんなして	ごめんください。	こんにちは「ごめんなして」
ごもくた	枯れた草木。ごみ。	小鳥が「ごもくた」を集めて巣を造る
こらいたる	許してやる。	今度だけは「こらいたる」
こら	軽い呼掛けでちょっと・あんだ。(これこれ)	「こら」こっち向いて
こらえる	我慢する。	少々痛くても「こらえる」
こりやん	懲りない。	怒られても「こりやん」のか
コルタン	コールタール。(Coltan は、鉱石の一種)	屋根に「コルタン」塗る
ころべ	頭からの前転。	「ころべ」うつ
こわしけない	固い。(こわい)	このご飯は「こわしけない」
こわす	両替。金をくずす。	千円を「こわす」
こわける	壊れる。	箱が「こわける」
ごんそわら	木や草むら。(ごそわら)	ボールが「ごんそわら」に入った
ごんた	ぐずる。いたずらっ子。	あの子はすぐ「ごんた」まく

こんだけ	これだけ。	「こんだけ」食べる
こんでええ	来なくて良い。これで良い。	あんたは「こんでええ」
こんどる	渋滞。(つんどる)	この道は「こんどる」ワ
こんなこって	この様なことで。	「こんなこって」ええかいな
こんに	こんなに。	「こんに」沢山くれるの
こんべ	頭。	「こんべ」を傾げる
ごんぼ	こぼう。	畑の「ごんぼ」堀る
さ行の方言	共通語・(方言の類似語)	会話の例
さいろ	秋刀魚。	魚屋で「さいろ」買う
さきっちょ	物の先 (さきっぱ)	棒の「さきっちょ」で突く
さくまいよう	要領よく。	もっと「さくまいよう」仕事をしなさい
さっきがた	先ほど。	友達は「さっきがた」帰った
ささって	共通語⇒三日後=しあさって=明々後日。 三重弁⇒①あした ②あさって ③【ささって】 ④しあさって	「ささって」に行く
ささこい	素早い。すばしっこい。	あの子は「ささこい」
さっせる	される。する。	おもしろいこと「さっせる」
さっても	とても	「さっても」菰野は良いところ
ざまない	不恰好。(ぶざま)	「ざまない」恰好
さまる	ぬるくなる・冷める。	「さまる」まで待つ
さぶい	寒い。(さつぶい)	「さぶい」時は上着をはおる

さぶぼろ	鳥肌。	怖くて「さぶぼろ」が出た
さら	新品。	これは「さら」のシャツ
さんざん	甚だしい。惨め。	今日の試験は「さんざん」やった
さんまい	墓地	「さんまい」へ花を供える
じじ	虫。幼児語	「じじ」がおつた
じおる	魚等をさばく。	魚を「じおる」
しおんとなる	元気がなくなる。	花は水が切れると「しおんとなる」
しがむ	噛む。	サトウキビの茎を「しがむ」
しがんだ	本来の大きさに成長していないもの。	この野菜は「しがんだ」や
しきょうぶれ	死去の連絡。	親戚へ「しきょうぶれ」をする
しこぎり	凄く。徹底的。	「しこぎり」怒られた
じさ	おじいさん。(じじい)	「じさ」が来た
しぞこない	失敗。しくじる。	「しぞこない」をした
したためる	水を切る。	洗米を「したためる」
しためる	浸しておく。	充分水に「したためる」
じちこましい	落ち着かない。	勉強中に「じちこましい」子が居る
じっきに	もうすぐ。間もなく。	薬飲んだから「じっきに」治る
しっとる	知っている。	あの人「しっとる」か
しっとったん	知っていたの	なんや君は「しっとったん」か

してしもた	～～やってしまった。	えらい失敗「してしもた」
しとったんで	～～していたので。	わき見「しとったんで」ぶつかった
しとりでに	勝手に。自然に。	車が「しとりでに」動く
しとなる	育つ。大きくなる。	大根が「しとなる」
じばん	下着・シャツ。	「じばん」を着る
しなされ	やりなさい。	このように「しなされ」
しなぼる	みずみずしさが失われる（しなびる、しおれる）	花が「しなぼる」
しにくい	難しい。（しぬくい）	親には話が「しにくい」
じべた	土の上。（ずべた）	「じべた」に座る
しまう	終わる・収納。	今日は遅いから「しまう」
しまいもん	最後の残り物。	これは「しまいもん」や
～～しまくる	やり続ける。（～～したくる）	勉強を「しまくる」
・・しもた！	しまった。失敗した時の言葉。	ワーツ「しもた」ことした
しもたや	店を閉める。元は商店の家。仕舞屋。	あそこは「しもたや」です
しもとく	かたづけておく。とっておく。	大切に「しもとく」
しもてった	亡くなった。片付けた。	90歳で「しもてった」
しやがった	～をした。（やりさがった）	悪いこと「しやがった」
しやく	つぶす。	空き缶を「しやく」
しやく	削・引き裂く。	手拭いを細かく「しやく」

～～しゃん	やめる。	悪いことは、もう「しゃん」
しゅむ	痛む。しみる。(しゅんだ)	むし歯が「しゅむ」
しゅむ	染み入る。	味が「しゅむ」
じゅむし	熟した。	「じゅむし」柿は甘い
じゅるい	ぬかるみ。	道が「じゅるい」
しょうない	仕方ない。	「しょうない」事や
しょぶたれ	だらしが無い。無精。	「しょぶたれ」た格好
しょうもない	つまらない。くだらない。	「しょうもない」こと言うな
しょうやけん	紙めんこ。	「しょうやけん」で遊ぼう
しょうけ	ざる。竹で編んだざる。	ドジョウ掬いの「しょうけ」
しよずむ	つまむ。	おかずを「しよずむ」
しよずくぼる	腰を低く座る。(つくぼる)	運動会で出番まで「しよずくぼる」
しよびつる	吊り下げて。ぶら下げる。	袋を「しよびつる」
しょうまいか	しましよう。(しょうっきゃ)	ままごと「しょうまいか」
しよっちゅう	よく。たびたび。	友達が「しよっちゅう」来てくれる
しょうよ	～しましよう。	ままごと遊びを「しょうよ」
じより	草履	昔は藁の「じより」履いた
しよんない	仕方がない。(しようがない)	これは「しよんない」わ
しよんべ	小便。	寝「しよんべ」した

しゃがった	やった・した。	悪いこと「しゃがった」
しゃんと	きちっと。	「しゃんと」した姿勢
しゃだれ	横なぐりの激しい雨。	今日は「しゃだれ」で傘もさせない
しゃへん	しない。	もう悪いことは「しゃへん」
しゃんといて	しないで下さい。	いらんこと「しゃんといて」
じゃがたら	ジャガイモの別名。	「じゃがたらいも」を掘る
じゃみる	終わってしまう。無しになってしまう。	だいじな話が「じゃみる」
じより	草履。	「じより」を履く
しらんがな	知りませんよ。	そんな事「しらんがな」
しりふき	後始末。	あいつの「しりふき」
しりこ	末子。(ばっし)	家の「しりこ」は女の子
しろかさ	知る訳がない。	彼奴は俺のことなんか「しろかさ」
しわる	しなる。そる。	雪で竹が「しわる」
しんものくい	新しいものに飛びつく。	彼は「しんものくい」や
しんこ	ご飯の生煮えの固い部分。	飯は水不足で「しんこ」が出来た
しんなさんな	止めときなさい。	そんなこと「しんなさんな」
すーい	酸っぱい。	このミカン「すーい」味がする
すけない	少ない。	「すけない」けど食べて
すこたん	頭。(どたま)	君の「すこたん」空っぽや

すくだ	稲わらを叩いて柔らかくしたときに出るごみ。	「すくだ」を取り除く
すこすこ	風通しがいい。大きくて緩い。	「すこすこ」のずぼん
すずみ	稲藁を保管する藁塚・わだぐろ。	藁は「すずみ」にして保管
ずたる	崩れる。	土手が「ずたる」
すっぺり	殆ど全部。こっぺり。	「すっぺり」猿にやられた
すっからかん	全部なくなる。(すってらてん)	小遣い「すっからかん」になった
ずくずく	びっしょ濡れ。	大雨で「ずくずく」
ずつない	しんどい。苦しい。	食べ過ぎて胃が「ずつない」
すべすべ	滑らか。(すべこい)	新しい畳の上は「すべすべ」
ずべた	地面。(じべた)	「ずべた」に座る
すまんこって	すいません。(すまんの)	こんなに貰って「すまんこって」
すまっこ	隅の方。(すみっこ)	大切なものやで「すまっこ」に置いといて
すももる	鶏が卵を抱く。	鶏が「すももる」
ずりこむ	はまる。	車輪が溝に「ずりこむ」
すりび	マッチ。(すりよ・からよ)	「すりび」でタバコの火をつける
すわき	隙間。	戸に「すわき」がある
すんな	止めとけ。	いたずらは「すんな」
すんません	すいません。	ごめんなさい「すんません」でした
すんぐ	直ちに。	俺「すんぐ」に行くわ

ずんと	方向。	この「ずんと」にある
せいさい	さんざん。思うだけ、十分。	親父を「せいさい」面倒みた
せーのー	いちにいの。	掛け声は「せーのー」よいしょ
せこい	悪い。見にくい。みみっちい。	あいつは「せこい」人や
せこみち	裏道、細い道	この先は「せこみち」
せせこましい	こそこそする。	あの人は「せせこましい」
せな	しなければ。	これ「せな」あかん
せばい	狭い。	この先は「せばい」から行けない
せまこい	狭い。窮屈。(せばい)	この中は「せまこい」わ
せらう	からかう。	いつも弟を「せらう」
せやで・・	それやで。(ほやで)	「せやで」止めた
せわしない	忙しい。	五月の百姓は「せわしない」
せんか	やりなさい。	仕事を「せんか」
せんところ	止めておこう。	兄弟喧嘩は「せんところ」
せんぐり	次から次へと。何度も繰り返し	「せんぐり」言うてくる
せんど	長い間。思う存分。充分に	「せんど」良くしてもらった
ぞうさしい	やかましい。暇添え。手間がかかる。	子供たちで「ぞうさしい」
そうや	そのようだ。(そやもん、ほーや)	それも「そうや」
そうやに	そうなんです。(そーやで)	本当に「そうやに」

そくろう	補修。	靴下が破れたので「そくろう」
そこらまわし	そこら辺り。(そこらへん)	「そこらまわし」に居る
そげ	刺・(とげ)	手に「そげ」が刺さる
そこそこ	ほどほど。	「そこそこ」にしておく
そこらへん	その辺。あっちやこっち。	「そこらへん」で聞いて
そしゃ	そうしたら。(ほしゃ)	「そしゃ」帰ります
そっちゃ	そちら。近くの方角。	「そっちゃ」向いて行った
そぶらかす	そっぽを向く。気をそらす。	何を言うたて話を「そぶらかす」
ぞめく	ひやかしながら歩く。ひやかし客。	街の遊郭や夜店を「ぞめく」
そやな	そうですね。	それも「そやな」
そやけど	そうですが。	それも「そやけど」これはどうや
そやげな	そういう事らしい。(そやげな)	あんたの言う通り「そやげな」
そやんか	そうですよ。	なにー「そやんか」
そらまあ	それはまあ。	「そらまあ」そやけど私は~~や
それとなし	それとは別に。知らんぷりして。	「それとなし」に聞いてみたら
そんで	それで。(ほんで)	「そんで」また来る
そんなり	そのまま。	道具は「そんなり」にしておく
そんなか	そうですか。(そなん)	なるほど「そんなか」
そんなこっちゃ	そういうことですよ。	わしはそう思う、まあ「そんなこっちゃ」

そんなに	そんなに。あまり。それほど。	「そんなに」酒飲むなよ
た行の方言	共通語・(方言の類似語)	会話の例
たあけ	ばか者。	てまいは何言うとする「たあけ」
たいもない	思いもよらない。	「たいもない」ことを言うな
たいえ	田植え。	今日は「たいえ」
だいこづけ	大根漬け。たくあん。	「だいこづけ」やるか
たいがい	ほどほど。おおよそ。	「たいがい」にしとけ
だいで	出会い作業。奉仕作業。	今日は「だいで」や
だいぶ	凡そ。かなり。	柿が「だいぶ」あからんだ
だいどこ	台所	「だいどこ」片付ける
だかえる	抱きかかえる。	赤ちゃんを「だかえる」
たく	煮る。	野菜を「たく」
たくしゃねる	無雑作にたたむ。	洗濯物を「たくしゃねる」
たこか	焚きましようか。	風呂を「たこか」
たしとく	不足分を補う。	一品「たしとく」わ
たしない	少ない。十分でない。	「たしない」お菓子をくれた
たてあう	立て合う。二つが重なる。	祭りと旅行が「たてあう」
たってった	飛んでいった。	帽子が風で「たってった」
だっしょもない	どうしようもない。だらしない。	「だっしょもない」格好

だだもれ	漏れが多い。	このバケツ「だだもれ」
だだら	むちゃくちゃ。散らかす。	この部屋「だだら」や
だだくさ	雑。	「だだくさ」なやり方
だちあく	駄目になる。壊れる。	そんなに叩くと「だちあく」
たっつく	立ち去る。	早く「たっつく」人がいる
だてこき	おしゃれ。	〇〇さんは「だてこき」
たなもと	台所。炊事。	「たなもと」を片付ける
だまっとって	黙っていてくださいさ。	君は「だまっとって」
だぶだぶ	大きすぎる。	ずぼんが「だぶだぶ」
たべさし	食べかけ。	夕飯の「たべさし」
たらかす	宥める。だます。	泣く子を「たらかす」
たらずまい	不足分。	「たらずまい」は幹事持ち
たるい	つまらん。	「たるい」こと言うナ
だるい	しんどい。えらい。	身体が疲れて「だるい」
～～たるい	度を越して。	この料理は甘っ「たるい」
たれもん	垂れる着物。絹物。	この「たれもん」ええやろ
だんだ	風呂。幼児語。	「だんだ」に入ろか
たんた	くつした。幼児語	ハイ「たんた」履こか
たんのした	飽きた。退屈した。	君の話は「たんのした」

たんまに	たまに。	「たんまに」来るわ
～～たんび	毎回、度々。	祭りの「たんび」に会える
だんない	かまわない。気にしない。	少々のごとは「だんない」
ちごた	違った。	答えが「ちごた」
ちびる	漏らす。ケチる。擦り減る	小便「ちびる」
ちべたい	冷たい。(つべたい・ひやこい)	湧き水は「ちべたい」
ちみぎる	つねる。	言うこと聞かな「ちみぎる」
ちゃう	違う。～てしまう(チャーウ)	れそは「ちゃう」やんか
ちゃんと	きちっと。正確に。	靴を「ちゃんと」揃えて脱いで
ちゅうたら	言うたら。	痛い「ちゅうたら」あかん
ちっちょ	小さく。	風船を「ちっちょ」せんといて
ちっこい	小さい。	これは「ちっこい」魚
ちょこちょこ	頻繁に。	「ちょこちょこ」来る
ちょんぼ	髪の毛をゴムなどで結ぶ。	髪の毛の「ちょんぼ」してやろ
ちょっとも	少しも(ちっとも)	仕事が「ちょっとも」進まん
ちょうける	ふざける	ここでは「ちょうける」ナ
ちょろい	情けない。少ない。(ちょろこい)	「ちょろい」こと言うな
ちょうず	便所。手洗い(センチ・せっちん・ご不浄)	「ちょうず」は何処や
ちょびっと	少し。(ちょぼっと・ちょこっと)	酒「ちょびっと」よんでくれ

ちよいあん	じゃんけん	順序は「ちよいあん」で決める
ちよいちよい	時々。独り歩き（幼児語）。	「ちよいちよい」来て
ちよいちよい	小馬鹿。もてあそび。	友達に「ちよいちよい」にされた
ちよっこらい	ちよつとやそつと。	これは「ちよっこらい」で収まらない
ちよんの	ちようの。手斧。	木を「ちよんの」で斫る
ちよつと	少し。（ちよこつと）	「ちよつと」横に寄って
ちらかす	物を一面に乱雑に広げる。	又！おもちゃを「ちらかす」
ちん	おやつ。（だちん）	「ちん」持って遊びに行く
ちんちん	超熱いもの。	湯が「ちんちん」に沸いた
ちんどり	からまる。	紐が「ちんどり」かいとる
つぎあい	申し合わせでお互いに贈答を省く。	卒業祝いは「つぎあい」にする
つくぼる	しゃがむ。	疲れたので「つくぼる」
つくねる	無雑作に置く。	木の下に「つくねる」
つぐるひ	次の日。	「つぐるひ」に行く
つっけんど	突然。	「つっけんど」にもものを言うナ
つっかえ	支え。（つっかい）	木の「つっかえ」して
つっかけ	サンダル。	あの人「つっかけ」履いている
つばくろ	つばめ。（とばくち）	「つばくろ」が巣を作った
つべたい	冷たい。（ひやこい・ちびたい）	湧水は「つべたい」

つぼどん	田螺。	「つぼどん」獲りに行く
つぼのうち	塀などで囲われた庭。	「つぼのうち」の手入れ
つる	吊り上げる。運ぶ。	二人で大きな荷物を「つる」
つるくる	ぶら下げる。(ぶらくる)	てるてる坊主を「つるくる」
つんどる	混雑・渋滞。	電車が「つんどる」
つんどく	積み重ねておく。	漫画本は本箱の横に「つんどく」
てあい	人。	君は何処の「てあい」や
てえ	支柱。	なすびの「てえ」をする
できもん	腫れ物。	「できもん」が痛い
できやん	出来ない。	こんな難しいことは「できやん」
てご	助手。手伝い	今日の「てご」は二人
てごこしい	手間を掛ける。	「てごこしい」料理
てったう	手伝う。	田植え「てったう」わ
てっとって	手伝って。	運ぶのを「てっとって」
でっころぼ	人形。	「でっころぼ」買った
ててこしい	上手な。器用な。	子供やのに「ててこしい」ことするね
～～ですんで	～～なので。	そういう事「ですんで」
でぶちん	おでこ。(でぼちん)	熱を「でぶちん」で確認
でべすけ	目立ちたがり。出たがり。	あの人は「でべすけ」

てまいら	君達。	「てまいら」と遊ぼう
でんしんぼう	電柱。	「でんしんぼう」に蟬がいる
でんち	綿入れのチョッキ。	寒いので「でんち」を着る
てんて	てぬぐい、手拭いの幼児語	「てんて」で顔を拭く
てんね	たまに。(てんせ)	「てんね」に来ておくれ
てんぼ	大変。	今日は「てんぼ」ええ日や
どいこと	ひどいこと。すごいこと。	「どいこと」言うな
とうぞこうぞ	どうにかこうにか。何とか。	「とうぞこうぞ」一人で来た
どーびん	カラス貝。	ため池で「どーびん」を獲る
どえらい	でっかい。大変大きい。(どは強調語)	これは「どえらい」魚
とおから	ずーっと前から。	「とおから」逢わなんだ
とかしけない	残り少ない。貴重。	「とかしけない」物をくれた
ときしよなしに	日時を選ばず。ひっきりなし。	彼が「ときしよなしに」来る
どきうつ	心臓がドキドキする。	走ってきたので「どきうつ」わ
どけ	退け。	邪魔になるから「どけ」「どけ」
どけとく	退けておく。	箱は通行に邪魔なので「どけとく」わ
どこぞ	どこか。	「どこぞ」に行こうか
とごる	沈殿。淀む。	砂糖水が「とごる」
としみ	灯明の白い芯。	「としみ」に油を染ませる

どしかれる	おこられる。(どは強調語)	親父に「どしかれる」
どしろうと	素人(どは強調語)	お前は「どしろうと」や
とずます	ぼとぼと落とす。	梅の実を「とずます」
どだい	いかなことに。	俺には「どだい」無理な話し
とっしより	年寄り。老人。	「とっしより」の冷や水
どっちらけ	ちらける。散らけるの強調語。	話を「どっちらけ」るナ
どっちみち	どちらにしても。	「どっちみち」俺が悪くなるのや
どっこも	どこにも。	〇〇を探したが「どっこも」無い
とっと	やっと。ようやく。	仕事が「とっと」終わったか
とっとく	片づけておく。収納しておく。	この書類を「とっとく」
どっちゃ	どちら。	これから「どっちゃ」へ行くの
どっぷり	たっぷり。充分。	水に「どっぷり」浸ける
どてつく	山に雨雲がかかる。	西の山が「どてつく」
とてつもない	とんでもない。意外な。	「とてつもない」こと言う
どまつく	迷う。	なんで「どまつく」のや
どもならん	悪い。どうにもならない。	あんたは「どもならん」奴や
とばくち	入口。物事の始まり。	「とばくち」に居ると邪魔になる
とびしゃれ	跳ねた水。	車の「とびしゃれ」がかかった
どぶとい	太いの強調語。	「どぶとい」大根できた

とぼす	灯す。	夕方に田圃の誘蛾灯を「とぼす」
とらまえる	つかまえる。	魚を「とらまえる」
とりがち	取り合い。	祝の菓子を「とりがち」や
とろこい	とろくさい。ばからしい。	「とろこい」ことを言うな
とろくさい	目だるい。のろい。劣る。	君は「とろくさい」
どんと	沢山。よおけ。(どすんと)	お菓子「どんと」おくれ
どや	どうですか。	この工作の出来栄え「どや」
どろべたこ	土でべたべた。	田植えでずぼんが「どろべたこ」
どんがら	空っぽ。	洞穴は「どんがら」
どんこい	のろい。どんくさい。	「どんこい」奴ちゃ
どんこつ	はげ類の淡水魚どんこ。	川で「どんこつ」を捕まえた
どんと	沢山。	俺の好きな焼酎を「どんと」注いでくれ
どんにしとる	どうしている。	あの人「どんにしとる」
どんだけ	どれくらい。「どんだけ～」	小遣い「どんだけ」や
どんぶりこいた	川などにはまり落ちた。	川で「どんぶりこいた」
どんべ	ビリ。(どべ)	運動会はいつも「どんべ」やった
どんぼ	重り。	釣り糸に「どんぼ」付けて
な行の方言	共 通 語 ・ (方言の類似語) ・ 会 話 の 例	
なおる	座る。	座布団に「なおる」

なおす	元に戻す。修理する。	壊れたおもちゃを「なおす」
ながたん	菜切り包丁。	野菜を「ながたん」で切る
なぎ	大変。困難。苦労。	この仕事は「なぎ」する
なごと	何事。	「なごと」言うのや
なっとか	どうにか。	これを「なっとか」して
なっとするん	どのようにするのか。	この畑「なっとするん」
なっとも	どうにも。	こりゃー「なっとも」ならんことや
なぶる	さわる。(いろろ)	火を「なぶる」と危険
なべつる	虹。	西山に「なべつる」掛かった
なまはんか	中途半端。いいかげん。	「なまはんか」なことを言う
なましい	生。	この木は「なましい」
ならかす	鳴らす。	鐘を「ならかす」
ならす	平らにする。平均にする。	土を「ならす」
なりてん	南天。	「なりてん」の実
なんしとんの	何してるの。	そんな所で「なんしとんの」
なんじゃー	何ですか。(なんじゃろ)。	「なんじゃー」こんな事出来ないのか
なんぞ	なにか。	「なんぞ」ええことないか
なんやか	あれやこれといった漠然とした形容をする際の表現。	「なんやか」持ってきた
なんなん	何ですか。	これは「なんなん」

なんな一	何だって。何だと！	「なんな一」？もう一遍言うてくれ
なんのかんの	あれこれ・色々な。	「なんのかんの」と言い訳する
なんのこっちゃ	どういことですか。	それは「なんのこっちゃ」
なんや	何。なんでや。	「なんや」こんな物
なんて？	何ですか。	今「なんて」言うたの
なんで	何ですか。	折角来たのに「なんで」やナー
にいやん	兄さん。	「にいやん」に聞く
にがむ	握る。つかむ。	小川で魚を「にがむ」
にき	近く。そば。(ねき)	「にき」に来る
にぎんだま	おにぎり。	遠足には「にぎんだま」に限る
にすい	情けない。弱い。鈍い。(につすい)	「にすい」こと言う
ぬくとい	暖かい。	今日は「ぬくとい」
ぬくとめる	温める。	盥の水を「ぬくとめる」
ぬくとんばら	ひなたぼっこ。	「ぬくとんばら」をする
ねあげ	婚約の世話人。	「ねあげ」は〇〇さんで仲人は叔父
ねえやん	姉さん。	「ねえやん」はまだ来んか
ねき	傍。近く。	私の「ねき」において
ねぐさる	痛んで腐る。	ご飯が「ねぐさる」
ねちこい	くどい。しつこい。	君は「ねちこい」奴

ねちゃねちゃ	しつこくねばる。粘こい。	指が「ねちゃねちゃ」する
ねっから	まだ。なかなか。	彼は「ねっから」来ない
ねね	赤ん坊。	「ねね」が生まれた
ねぶる	舐める。	猫が皿を「ねぶる」
ねぶったおす	舐め続ける。	水飴を「ねぶったおす」
ねやれん	寝れない。	ゆんべは「ねやれん」だ
のあがり	田植え休み。	「のあがり」にボタ餅作ろう
のうなる	なくなる。	早やく食べんと「のーなる」ぞ
～～のう	念を押す時の接尾語。	あかんやんか「のう」
のぞき	刺身の醤油入れ。	「のぞき」にたまりを入れる
のぞかわく	喉が渴く。	暑いので「のぞかわく」わ
のたらかす	這わす。横たえる。	南瓜のつるを「のたらかす」
のっぴき	どうにも。	これは「のっぴき」ならん
のく	退く。(どく・どけ)	危ないから「のく」
のぐ	脱ぐ。	服を「のぐ」
ののこ	綿入れ。	「ののこ」のでんちを着る
のろい	遅い。	「のろい」ことなら猫でもする
のんのさん	神仏。(のんのんさん)。	「のんのさん」に参る
は行の方言	共通語・(方言の類似語)	会話の例

はい	はえ 蠅。	「はい」 捕り紙をぶら下げた
～はい	既に。早く。	もう「はい」 来た
はかいく	はかどる。	機械を使うと「はかいく」
ばさ	おばあさん。(ばあやん)	「ばさ」が怒る
はさかる	挟まる。隙間に挟まる。	歯にものが「はさかる」
はさぐ	乾く。	稲が「はさぐ」
はしかい	違和感。かゆい。チクチクする。	背中が「はしかい」
はした	余り。半端。	生地「はした」
はそむ	はさむ。(しよずむ)	箸で「はそむ」
はたいも	里芋。(ただいも)	「はたいも」を掘りに行く
はだてる	新しく事をおこす。計画する。	私がこの話を「はだてる」
はとんぼり	通せんぼ。	ここから「はとんぼり」
～ばっか	ばかり。～～だけ。	俺「ばっか」に言う
ばっぼ	餅菓子。	「ばっぼ」を貰う
はでる	目立つ。	この着物は「はでる」
はどる	こまる。(はどった)	こんなことでは「はどる」
ばばい	汚い。ずるい。(ばばっちい)	「ばばい」事をするな
ばばこ	ハゼ科の淡水魚でヨシノボリ。「通称川ハゼ」 孤野町北部の河川で流れの緩い場所や石の周りに生息。 イサザ・イサダ・ゴリは琵琶湖等に生息、川ハゼと同属種。	川で「ばばこ」獲る
～はな	先の方。すぐの所。	居間の上がり「はな」

はなぼこ	鼻汁の風船。	「はなぼこ」膨らむ
はりあいええ	頼もしい。甲斐がある。	孫が一等賞で「はりあいええ」わ
はりあいない	残念。つまらない。楽しくない。	君が来ないので「はりあいない」
ばりきかける	頑張る。きばる。	人が見ているから「ばりきかける」
はやびる	少し早い昼飯。(こびる)	「はやびる」食べてから行く
はよ	早く。	待っとるで「はよ」来て
はんこ	綿入れの半纏。	寒いので「はんこ」を着るワ
はんじらかし	散らかしたまま。	仕事を「はんじらかし」で帰った
はんじかん	30分。	もう「はんじかん」待って
ばんげ	夕方から夜にかけて時間帯。	君の家へ「ばんげ」に邪魔するわ
ひかられた	叱かられた。(ひからった)	ゆんべ親父に「ひかられた」
ひかわる	引き下がる。	喧嘩に負け「ひかわる」
ひきずり	すき焼き。	今夜は「ひきずり」で夕食
ひきしゃく	引き裂く。	手拭いを「ひきしゃく」
ひこ	田圃の隅。	「ひこ」に苗を植える
ひざぼこ	膝。(ひざぼし)	「ひざぼこ」を擦りむいた
びしゃかき	榊。(ひさかき・ブシャカキ)	神棚に「びしゃかき」を供える
ひっこみ	喉の咽頭辺り。	「ひっこみ」に飯粒が入り咳き込む
ひっちらかす	ちらける。散乱する。	おもちゃを「ひっちらかす」

ひっちくどい	しつこい。くどいの強調語。	「ひっちくどい」 こと言うな
ひっつける	つける。接着する。(くっつける)	これとこれを「ひっつける」
ひっどい	大変。きつい。	あの人に「ひっどい」 ことを言われた
ひっしゃげる	提げる。手で下げて持つ。	バケツを「ひっしゃげる」
ひっしゃけた	裂けるの強調語。	雷で大木が「ひっしゃけた」
ひちこはちこ	混ぜる。	米と麦を「ひちこはちこ」した
ひとねり	少しの間の眠り。	昼飯の後は「ひとねり」するわ
ひとなりざかり	成長期。	息子は今が「ひとなりざかり」
ひとくべ	ちょっと焚く。	風呂を「ひとくべ」しようか
ひね	古。	「ひね」米は不味いわ
ひねくる	いじりまわす。	「ひねくる」と壊れる
ひねづけ	古い大根のぬかづけ。	「ひねづけ」大根いかが
ひねくれもん	へそ曲がりの人。性格が変わっている人。	君は「ひねくれもん」
ひぼ	紐。	花を「ひぼ」で括る
ひやこい	冷たい。(ひやっこい)	湧き水は「ひやこい」
ひよご	じゃこ。しらす。	酒のあては「ひよご」だけ
ひよかた	日雇いの人。	建舞は「ひよかた」の手伝い
ひんだり	左。(ぎっちょは差別語)	私の彼は「ひんだり」利き
ひんなか	昼間。(ひなか)	「ひんなか」は暑かった

ふご	畚。	さつま芋を「ふご」に入れて運ぶ
ぶっちゃける	ひっくり返す。(ぶっちゃかす)	バケツを「ぶっちゃける」
ふとっとる	太っている。(こえとる)	君は「ふとっとる」ナ
ぶらくる	吊り下げる。(ぶらんさげる)	渋柿を「ぶらくる」
ふんだくる	踏み歩く。踏み倒し続ける	麦踏みで芽を「ふんだくる」
へえかます	くすねる。こっそりと盗む。	店で「へえかます」
へえこく	おならする。	人前で「へえこく」
べこべこ	老朽化して凹凸する。	床が「べこべこ」する
べしょべしょ	びたびた。(べしょぬれ)	雨で「べしょべしょ」
へずる	少し貰う。削って取る。	あんたの菓子ちょっと「へずる」
べた	直に。	「べた」に物を置く
へたる	へたばる。疲れる。座る。	暑さに「へたる」
へちがむ	歪む。変形する。	ボールが「へちがむ」
へちゃ	ブス。鼻が低い子。	あの子は「へちゃ」
へちとる	すねている。	この子「へちとる」
へつる	削る。(はつる)	曲がった木を「へつる」
へっこみ	喉の窪み。	飯が「へっこみ」に入った
へっこむ	へこむ。窪む。	道が「へっこむ」
べったらこ	べたべた。べったり広がるさま。	服が「べったらこ」

べと	土。どろ。	顔が「べと」だらけ
へばりつく	つきまとう。	孫が「へばりつく」
～～べら	～～側。	荷物をこっち「べら」に置いて
へんばり	クモの巣。	クモの「へんばり」が顔についた
へんぼ	はしくれ。出来損ない。	胡瓜の「へんぼ」
～～へん	否定の接尾語。	もー悪いことはしや「へん」
ほいて	それで。それから。（ほんで）	「ほいて」これもやって
ほいたら	そうしたら。	「ほいたら」又来て
ほいたおす	追いまくる。（ぼーたる）	川上から魚を「ほいたおす」
ほいだす	追い出す。	いたずら子は家から「ほいだす」
ほうか	そうですか。（ほうけ）	「ほうか」知らなんだ
ぼう	追う。	家に来た野良猫を「ぼう」た
ほうたになる	熟睡した様子。	この子は直ぐに「ほうたになる」ワ
ほうてく	這って行く。	足が痛くて「ほうてく」
ぼくた	木の丸太。	「ぼくた」で殴る
ほこ	そこ。	「ほこ」に置いておく
ほころぶ	少し破れる。縫い目が解ける。	ズボンが「ほころぶ」
ほこめき	ムツとする暑さ。	今日は少々「ほこめき」がある
ほざほざ	こまごま。雑なもの。	「ほざほざ」を片付ける

ぼさぼさ	手入れがしてない様。	「ぼさぼさ」の髪の毛
ほしゃ	そうしたら。(ほしたら)	「ほしゃ」また来てね
ほせくる	掘り返す。つつく。(ほじくる)	穴を「ほせくる」と出てくる
ほせんぼ	細い棒。	「ほせんぼ」で突いた
ほったらかし	置きっぱなし。	「ほったらかし」で帰った
ほっかぶり	頬かむり。	手拭いで「ほっかぶり」する
ほったる	捨てる。ほる。	要らんものは「ほったる」
ほったる	蛭。(ほうたろ)	「ほったる」来い山虫来い
ほっとく	そのままにする。(ほっとけ)	泣く子は「ほっとく」
ほつつき	付きまとう。(へばりつく)	母親に「ほつつき」歩く
ほっさん	星。	今夜の「ほっさん」は綺麗や
ほっこり	はっきり。すっきり。	今日の天気「ほっこり」せんな
ぼっこい	古い。(ぼろこい。ぼっさい)	「ぼっこい」車
ほてる	顔が熱くなる。	人前では顔が「ほてる」
ぼて	廃品・不用品。	「ぼて」は廃棄する
ほとる	蒸し暑い。	今日はえらいこと「ほとる」
ほとくら	着物の胸の部分に入れたお金。	金がなく「ほとくら」が寂しい
ほねやすみ	身体を休める。	雨降りは「ほねやすみ」
ほべた	頬べた。ほっぺ。	「ほべた」を叩く

ほやけど	そうやけれども。	「ほやけど」これも良い
ほれでも	それでも。	「ほれでも」分からないか
ほろすけ	フクロウ。	ホーホーと「ほろすけ」が鳴く
ぼろけ	値打ちがないさま。使い古し。(ぼっこ)	僕は兄の「ぼろけ」の服
ほんさつき	ほんの少し前。	あの人は「ほんさつき」帰った
ほんこさん	浄土真宗の報恩講。	「ほんこさん」を勤める
ほんで	それで。	「ほんで」早く行く
ほんでも	それでも。	「ほんでも」足らんか
ほんなか	そうですか。そんなことですか。	なるほど「ほんなか」
ほんなら	それなら。	「ほんなら」分かった
ほんに	そんなに。	良いもの「ほんに」くれるの
ま行の方言	共通語・(方言の類似語)	会話の例
まいまいこんぼ	舞さまよう。くるくる回る。	「まいまいこんぼ」すると目が回る
~~まいか	~だろう。	勝手に行くやろ「まいか」
~~まくる	追い立てる。(~~しまくる)	鶏を追い「まくる」
~~まくる	続ける。	悪口を言い「まくる」
ませば	馬や牛小屋の出入り口。社会の窓。	「ませば」が開いている
またい	無難。確実。	自分でやった方が「またい」
まちごうとる	間違っている。	この答えは「まちごうとる」

まっかご	竹製の物入れ。	松茸を「まっかご」に入れる
まっかえ	交換。すり替え。	私の宝石を「まっかえ」られた
まっとって	待っていて。	直ぐ行くので「まっとって」
まにあう	役に立つ。	小さい体でもよく「まにあう」子やナ
ままい	眩しい。	太陽が「ままい」
まや	牛小屋の敷き藁。	牛の「まや」は臭い
まるけ	いっぱい。一面。	この畑は草「まるけ」や
まるくんだま	前転。	「まるくんだま」をうつ
まわし	準備。	夕飯の「まわし」をする
まんだ	いまだに。まだ。	彼は「まんだ」来んワ
まんまと	思うまま。	あの人の話に「まんまと」騙された
まんぼ	集水トンネル。横穴。	「まんぼ」でコウモリを捕まえた
みいつき	三か月。	もうはい「みいつき」たってしもうた
みえる	来る、いらっしゃる。	先生が「みえる」
みくわ	御鋤祭、地域の春の神社祭り。	「みくわ」によばれて行く
みしろ	藁で編んだ敷き物。むしろ。	花見に「みしろ」を敷く
みしりとる	引きちぎるように強引に取る。	急いで茶の葉を「みしりとる」
みずする	人見知りする。	この子は「みずする」癖がある
みぞさらえ	溝掃除。	クリーン作戦で「みぞさらえ」をした

みどこ	魚などの身の部分。	魚の「みどこ」を取る
みどる	良い所をとる。	あの子はいつも「みどる」
むかぜ	百足（むかで）	「むかぜ」がいた
むさんこ	むやみに。無茶に。	「むさんこ」に引っ張るナ
むじゃける	潰れる。（みじゃける）	イチヂクが「むじゃける」
むせこい	うっかしい。蒸し暑い。	彼奴は「むせこい」奴や
むたい	変わった。無法。乱暴。	近頃「むたい」事があった
むつご	サナギ。	チヨウやかぶとの「むつご」がいっぱいいる
むてくそ	やりたい放題。無手。	奴は「むてくそ」や
めえもうた	目が回った。	ブランコしたら「めえもうた」
めっちゃ	無茶。とても。非常に。	「めっちゃ」旨い
めっそ	目分量。だいたい。いい加減。	砂糖の量は「めっそ」で良い
めばんちょ	めだか。	川で「めばんちょ」獲る
めめず	みみず。	川魚釣りの餌は「めめず」
めめる	目でにらむ。	悪いことしたら「めめる」
めんぼ	目の中の吹き出物。ものもらい。	「めんぼ」ができた
めんめ	各々。一人一人。	弁当は「めんめ」で用意
めんた	雌。	この鳥は「めんた」や
もうち	野鳥を獲る餅状のもの。	「もうち」で小鳥を獲った

もうはい	既に。もはや。	「もうはい」終わった
もおて	貰らって。(もうた、もうとる)	ぼた餅を「もおて」来た
もさこい	むさくるしい。だらしが無い。	「もさこい」恰好
もたらかす	傾ける。(もたれる)	木に「もたらかす」
もちかねほす	しかねる。大義がる。大変な事。	この仕事は「もちかねほす」
もっぺん	もう一度。	そのまねを「もっぺん」やって
もっこ	担い棒で運ぶ袋のような入れ物。	小石を入れる吊り「もっこ」を
もってく	持って行く。	美味しいお菓子を「もってく」ワ
もったろ	持ってあげよう。	荷物を一つ「もったろ」
～～もて	～しながら。	仕事し「もて」聞いとった
ものいう	口を利く。効果や効力を発揮する。	金が「ものいう」時代
ももた	大腿部。太もも。	「ももた」を細くする体操
～～もんで	～ものだから。	そんな事知らん「もんで」ごめんなさい
や行の方言	共 通 語 ・ (方言の類似語) ・ 会 話 の 例	
やあこい	軟らかい。(やらかい)	このご飯は「やあこい」
やーたれる	枯れる。萎れる。	日照りで花が「やーたれる」
やうち	家の者みんな。	「やうち」で来た
やくたい	役にたたない人。厄介者。	君は「やくたい」者
やぐい	弱い。脆い。	この支えは「やぐい」

やけつり	やけど。	火箸で「やけつり」した
~~やぞ	~~ですよ。(~~やで・~~やに)	そういうこと「やぞ」
やっすい	安い。易い。簡単。	この野菜の値段は「やっすい」
やっせない	やるせない。気が気でない。	足元見ると「やっせない」
やっどこさ	かろうじて。なんとか。	「やっどこさ」ここまで来た
やっとく	しておく。	俺が後始末「やっとく」わ
やめる	痛む。病む。	切り傷が「やめる」
やらかした	失敗。やってしまった。	遂に「やらかした」
やらしい	恥ずかしい。嫌な。	見つめられると「やらしい」
やらしがり	恥ずかしがり。	この子は小さいころから「やらしがり」
やらんといて	あげないで下さい。	この子は虫歯やで甘いもの「やらんといて」
やりほっかい	やり放題。	「やりほっかい」で帰った
~~やん	~~できない。	足が痛くてもう歩け「やん」
~~やんな	~~ですね。	あんた同級生「やんな」
ゆいやがる	言うた。	あいつが悪口「ゆいやがる」
ゆうて	入浴手ぬぐい。湯手。	風呂の「ゆうて」で洗う
ゆこ	衣桁(いこう)。衣紋掛け	着物の陰干しは「ゆこ」を使う
ゆさ	藁で編んだ幼児用のかご。エジコ。	子供の頃は「ゆさ」で育った
ゆる	揺り動かす。揺さぶる。	ブランコを「ゆる」

ゆんべ	昨夜。(よんべ)	「ゆんべ」の夢
よいこらしよ	掛け声。(よいしょ・よっこらしよ)	ここで一休み「よいこらしよ」
ようけ	沢山。(ようさん・ぎょうさん)	「ようけ」飲んだ
よかる	良いだろう。	このくらいで「よかる」
よさり	夜。	「よさり」寒かった
よせる	取り込む。端によける。	洗濯ものを「よせる」
よそいき	外へ出る時の衣服や持ち物。	この服は「よそいき」用
よたつく	よろける。不安定。	飲みすぎて足が「よたつく」
よっぽど	よほど。	彼は「よっぽど」嬉しかったのや
よばれる	ご馳走になる。	腹一杯「よばれる」
よぼっとる	呼んでいる。	大きな声で「よぼっとる」
よぼし	烏帽子の形に切った菓子。	「よぼし」食べた
よぼる	呼ぶ。声をかける。	俺を「よぼる」ので振り返る
よめどり	嫁をむかえる。田舎の結婚式。	今日は母屋の「よめどり」
よめよび	新婦を招待してご馳走をすること。	今夜「よめよび」をする
よわった	困った。疲れた。	これは「よわった」な一
ら行の方言	共通語・(方言の類似語)・会話の例	
らっくい	容易。楽い。	荷物運びは「らっくい」
らんきよ	らっきょう。	「らんきよ」が豊作

りょうほ	両方。	「りょうほ」持って来い
りんりき車	人力車。	お医者さんが「りんりき車」で往診
わ行の方言	共通語・(方言の類似語)・会話の例	
わいてくる	出てくる。思い出してくる。	昔のことが「わいてくる」
わいら	君達。	「わいら」は帰れ
わけこ	分け合う。	お菓子を「わけこ」する
わけない	簡単。容易。とんでもない。	こんな事「わけない」
わざに	暇を避けて。わざわざ。	「わざに」来てもらった
わじょ	あなた。	「わじょ」は何しとる
わしんどこ	私の家。	「わしんどこ」へ来て
わっけもない	思ったより意外な。	「わっけもない」ほど多い
わや	筋が通らない。無茶。	「わや」言うな
わやく	いたずら。横着	「わやく」するナ
わやくちゃ	台無し。めちゃくちゃ。	折角の料理「わやくちゃ」や
わやくそ	めちゃめちゃ。(わやな)	「わやくそ」な事言う
わるひと	普通の人。凡人。	「わるひと」には分らん

編集後記

2020年1月中旬より新型コロナウイルス感染症が拡大し、その感染拡大防止の為、政府より不要不急の移動の自粛や Stay home、更には「密閉・密集・密接」を避ける心がけを日本全国に要請されました。

その様な状況の中で、家に居る時間が増えたので菰野のことは「菰野の方言集」（菰野弁）を作成しました。

内容は菰野町内の先人達が、日常会話として使用していた昔の菰野の言葉を纏めたものです。

しかし、菰野町は員弁市や桑名市など、又岐阜県や愛知県などに隣接し、時の流れと共に交通網の発達に伴う人の往来があつて、言葉も入り混じつたと考えられます。

菰野町内に於いても南部と北部で異なる言葉があり、菰野の先人達が喋っていた方言（菰野弁）は、まだまだあろうかと思いますが、この方言集に対して皆さんからのご指摘や、教えてもらった言葉は順次修正・追加して更に充実したものにさせて頂きたく存じます。

これをご覧頂いた方々のご協力をも強くお願いします。

尚、差別用語や放送禁止用語などは、割愛させていただきました。

ふるさと

菰野の方言集（菰野弁）

著作・発行 菰野の方言研究会
代表 諸岡時次

寄贈 菰野の方言研究会
所蔵 菰野町教育委員会

2021年10月 初版
2022年 2月 改訂版（1号）
2022年 8月 改訂版（2号）
2025年 3月 改訂版（4号）

不許複製
非売品

